

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472400324		
法人名	社会福祉法人 日就会		
事業所名	グループホーム悠里の郷	ユニット名	さくら
所在地	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12-1		
自己評価作成日	平成27年11月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは県南にあり、温暖な気候でとても住みやすい環境です。建物は木目調で温かみがあり、冷暖房完備でスプリンクラーも設置しています。日当たりがとても良い立地で、庭も広く家庭菜園ではスイカやカボチャなど様々な野菜を作り収穫を楽しめ、天気の良い日は、ウッドデッキで日光浴をして、のんびり過ごす事もできます。夏には隣接する特養で地域の方々との合同で夏祭り、秋には家族の方も参加して芋煮会を行っています。また、気分転換で町内をドライブしたり、外食に出掛けたり生活に活気を持っていただける様、行事を計画しております。利用者の方が安心して、穏やかな生活ができる様、職員は認知症介護実践者研修や救急救命の講習会に多く参加しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周りは法人の特養や保育所、学校、児童館、仮設住宅などが混在している。食堂からは山茶花の垣根越しに見える散歩する住民の姿や近所の家々が建ち並んでおり、長年住み慣れた入居者の安心感に繋がっている。職員の入れ替わりも少なく、入居者と馴染みの関係にあり、笑顔が多く表情が良い。目標達成計画に掲げた「その人らしい生活が出来る」の取り組みとして、帰宅願望のある入居者を取り上げ、1日の行動、活動状況、バイタル、排泄状況を1週間記録し、職員全員で考察し、要因を探り共有した対応に取り組むなど、入居者の笑顔を引き出す様努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年11月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:グループホーム悠里の郷) 「ユニット名 さくら 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をホーム内の目につきやすい場所に掲示し、常にスタッフが意識できるようにしている。	開所時作成の理念は、全職員で振り返ることにはないが、ケアを通して職員はそれぞれに理解している。入居者、職員、地域等の関係性などホームを取り巻く状況を振り返り、職員間で話し合いを持ち共有して頂きたい。	開設11年目であり、新たな思いで、理念について職員、入居者の状況等が現状に沿った対応であるかを全職員で振り返り、さらなるケアに向けることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや芋煮会を通して地域の方々との交流がある。	季節ごとの行事に、児童館から飾り付け品が届きホーム内に飾る。芋煮会は区長が案内を回し数名の参加があった。外気浴や散歩時に地域の方と挨拶を交わす等している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などを通して、認知症の方との交流を持ち理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域の区長・民生委員・役場職員・学識経験者・家族様代表の方々との会議を行い、介護サービスに反映している。	奇数月に福祉課職員等の参加で開催している。行事、入居者の様子等ホームからの報告が主だが、メンバーから「認知症カフェ」の情報を得た。参加者から意見を引き出す様な工夫をしサービスに反映させて頂きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で情報交換の場を設け、協力関係を築いている。	家族からの依頼で更新手続きに出向いたり、事故報告や、解からない事を聞くなどし、助言を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県が計画する実践者研修に参加するなどし、研修報告にて、職員全体に情報を共有している。	研修で帰宅願望のある方の要因を探るべく、一日の行動、バイタル、排泄の有無などを一週間、全職員が記録し、考察し、共有した対応をした。職員の見守り、巡視を強化することで拘束の無いケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修報告などで報告し虐待を防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で成年後見人について学び報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するものは、必ずご家族様が理解できたか確認し、納得されるまで十分な説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、利用者様・家族様がいつでも意見・要望を伝えることが出来る様にしている。また、家族様が来所時は意見や要望等を確認している。	予防接種を受ける病院の希望があり、車の手配や職員が付き添うなど応じている。「悠里の郷便り」に行事等の案内を載せて参加を呼び掛ける等工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はいつでも職員の話聞くようにしており、職務が円滑に出来る様にしている。	希望休を受け、勤務票に反映させたり、休憩時間を確保するための話し合い等を設けたり職員の働きやすい環境づくりに努めている。トイレのタンクの水量調整や換気扇の不具合の意見があり、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課制度や職員個々の実績、勤務状況を把握し、職員の配置を行い就業環境の整備をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度等を活用し力量を把握し、実践者研修に参加するなどして人材を育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流の他、宮城県グループホーム協会に加入し、他施設の職員の方との交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安・不満・要望・意向を聞く機会を作り、個別に対応することで安心と信頼関係を築く事が出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は利用者様・家族様からの相談や心配な事などを確認しており、面会時にも家族様への声掛けを行い、家族様が安心できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様の意向を確認しながら、必要な支援を提供できるよう、対話する機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般において、利用者様と接する機会を持ち、共に過ごす事により、身近な存在である様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院等、家族様の協力を得ながら行い、敬老会・芋煮会等にも家族様への参加を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内のドライブに参加していただいている。また行事に地域の方が参加していただく事により、馴染みの人との関係の継続ができています。	定期的に馴染みのハーマ屋に行ったり、生家や元の家近所に行く等思いに沿っている。町内の行事に参加し、馴染みの友人に会う事もある。ホーム内では仲よし同士居室で寛いだり、日光浴に誘い合ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や相性等を把握し、食事の席や活動への参加を促し、良好な関係が築く事が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者や家族様にも、状態を把握し、支援が必要な状況なのかを確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの意向や暮らし方の希望を把握し、その人らしい生活が出来る様に支援している。	対話を多くして思いを引き出している。居室で晩酌をしながら食事を希望する方には応じている。周辺症状のある方には、他入居者に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査には、生活歴や生活環境・生活の様子等を確認している。実態調査の資料を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの心身の状態を把握し、個人に合った生活を送ることが出来る様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画とモニタリングを定期的におこなひ、利用者様・家族様の意向を確認している。	ホームに慣れることを目標に暫定で作成し、期間を設けて日常を観察し本計画書とする。月1回全職員で話し合いを持ち、ケース記録を基にモニタリングをしている。特変等は随時関係者の意見を取り入れ見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	課題や心身に変化があった場合はケースに記録し、情報の共有を行っている。随時、利用者様の心身の状態に応じて、支援の方法を検討し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、利用者様の心身の状態に合わせ、ケアの方法を検討し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢者に行事の案内をして、参加していただくことで、交流を持ち暮らしを楽しんでいただけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族様の意向にて医療機関を受診している。本人様の状態に合わせ家族様と連携して適切な医療を受けることができる様支援している。	入居者のバイタルなどの情報は事前に医師に手渡している。通院は家族が対応し、月1回家族が薬をホームに届けている。家族の希望で専門医を受診している方は月一回の往診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員がいないため、隣接している特養の看護師に情報を提供し、適切な判断ができる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者様の介護情報や看護サマリーを提供している。早期退院に向け、病院の相談員・家族様との調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者の家族様には、事業所ができることを説明し、今後の支援について話をする機会を設けている。	重度化の対応は口頭で家族に説明をしている。グループホームとしての重度、看取りの対応の考えはないが、家族向けの説明する文書等を準備し、同意を得る事の必要性を感じており、法人と話し合いを持ち、前向きに検討したいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームの職員すべてが、消防署で行われている救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。夜間の避難を想定した訓練も行っており、消防署の協力もいただいている。	消火、通報、避難の総合訓練を実施した。訓練時の計画書には職員の役割等を詳しく記載してある。毛布の準備や非常食の期限の確認等の指摘があり見直した。日程が合わず地域住民の参加が得られなかった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせた声掛けを行っており、誇りやプライバシーを損ねる声掛けを行わない様に支援している。	「夕食が近いからすぐ戻ってね」の声掛けの目線を意識し、入居者を尊重する対応を心掛けている。女性の方は居室で化粧水やクリームを塗る等した後の洗面台の汚れをそれとなく職員はきれいにしていく。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意向を尊重し、自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重し、業務の流れを押し付けることが無いように支援を行っており、無理強いはしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	暑い・寒いを考慮しながら、その人らしい身だしなみ・おしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の食器を使い、食事の形態・嗜好も考えている。下膳ができる利用者様には協力いただいている。	調理師資格のある職員を中心に入居者の意見を聞き献立を作成している。食材を多く取り入れ、副菜の一品の食材の種類と量の多さを職員が感じ、検討するとしている。行事食は出前、寿司、鰻が好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取状況・体重を把握している。水分・栄養が不足している方には、その人に合った食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア希望の利用者様には週1回、歯科衛生士による口腔ケアを行っている。歯科衛生士よりアドバイスをもらい、口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄をチェックしており、排泄の状況を把握している。排泄のパターンを把握し個人に合ったケアを行っている。	排泄チェック表からトイレへの回数、尿量が少ない方は腹圧をかけたり、水分量を確認する等対応をしている。トイレ誘導する事で、パッド数が改善されたり、全介助での食事の方がトイレで排泄をするようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヨーグルトを提供し、ラジオ体操も軽い体を動かしている。排泄の状態に応じて、下剤の服用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の状況を把握しながら、利用者様の意向に合わせて入浴を行っている。	週2回、曜日は決めず、入居者の希望に応じている。症状が進行し、入浴をしたことを忘れていたり、拒否をする方には無理強いすることなく、対応している。一番風呂や同性介助の希望に応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムに影響がない範囲で、状況に合わせて休んでいただいている。睡眠の状況も記録し把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族様より、処方されてる薬の書類をいただいております。職員が薬を管理している。服薬は手渡し・全介助等、利用者様の状態に合わせて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状況に合わせて、掃除の手伝い・洗濯物の整理を行っている。また、活動・行事・野菜の収穫等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が好きな利用者様は敷地内を自由に歩いている。外出・外食も行っており生活の活性化を図っている。	亘理公園、竹駒神社等へ外出をしている。敷地内や、近所を散歩したりテラスに出て日光浴をしている。車の使用は「法人に申し出て」と言う事で制限はあるものの、できるだけ入居者の希望に応じる様職員は努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	業者等に支払う金銭は、職員が管理しているが、個人で金銭を持ちたい方には、少額の金額を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	精神的に不安定な時など、家族様に連絡し精神の安定を図っていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の飾りは季節に応じて変えており、季節感を感じるように工夫している。	食堂兼居間は、日差しが当たり、広くて明るい。空気等の澁みはなく適室温で居心地が良い。2カ所に置かれたテーブルには、気の合った入居者同士で話が弾んでいる。毎年、干支をかたどった製作は入居者と職員の合作で壁に飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂フロア・談話室・和室があり、自由に好きな場所でくつろいでいただいている。天気の良い日は外のベンチも利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室内の家具等は自由に使っていただいております。ソファ等を使用し、家族様と談話できるようにしている。	全居室は床暖で、広い。ベッドと洗面台は設えてあり、使い込んだテーブルや、テレビ、こたつ等を置いている。家族の置いたソファで面会時にお茶を飲んだり、個々に過ごしやすい居室作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の状況に合わせ、必要なケアを行っており残存機能の低下防止をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472400324		
法人名	社会福祉法人 日就会		
事業所名	グループホーム悠里の郷	ユニット名	はぎ
所在地	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12-1		
自己評価作成日	平成27年11月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは県南にあり、温暖な気候でとても住みやすい環境です。建物は木目調で温かみがあり、冷暖房完備でスプリンクラーも設置しています。日当たりがとても良い立地で、庭も広く家庭菜園ではスイカやカボチャなど様々な野菜を作り収穫を楽しめ、天気の良い日は、ウッドデッキで日光浴をして、のんびり過ごす事もできます。夏には隣接する特養で地域の方々との合同で夏祭り、秋には家族の方も参加して芋煮会を行っています。また、気分転換で町内をドライブしたり、外食に出掛けたり生活に活気を持っていただける様、行事を計画しております。利用者の方が安心して、穏やかな生活ができる様、職員は認知症介護実践者研修や救急救命の講習会に多く参加しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周りは法人の特養や保育所、学校、児童館、仮設住宅などが混在している。食堂からは山茶花の垣根越しに見える散歩する住民の姿や近所の家々が建ち並んでおり、長年住み慣れた入居者の安心感に繋がっている。職員の入れ替わりも少なく、入居者と馴染みの関係にあり、笑顔が多く表情が良い。目標達成計画に掲げた「その人らしい生活が出来る」の取り組みとして、帰宅願望のある入居者を取り上げ、1日の行動、活動状況、バイタル、排泄状況を1週間記録し、職員全員で考察し、要因を探り共有した対応に取り組むなど、入居者の笑顔を引き出す様努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成27年11月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:グループホーム悠里の郷)「ユニット名 はぎ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの理念一覧を全てのスタッフに配布し、内部研修会でも確認している。又基本理念を玄関や事務所に提示して実践へと繋げている	開所時作成の理念は、全職員で振り返ることではないが、ケアを通して職員はそれぞれに理解している。入居者、職員、地域等の関係性などホームを取り巻く状況を振り返り、職員間で話し合いを持ち共有して頂きたい。	開設11年目であり、新たな思いで、理念について職員、入居者の状況等が現状に沿った対応であるかを全職員で振り返り、さらなるケアに向けることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや芋煮会等の行事を通して、地域の一員として交流している	婦人会による年2回の花植えの協力や児童館から飾り付け品が届く。芋煮会は区長が案内を回し数名の参加があった。外気浴や散歩時に地域の方と挨拶を交わす等している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などを通して、認知症の方との交流を持ち理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設長や区長、民生委員、役場福祉課、学識経験者、御家族様代表の方々と会議を行い、その意見をサービス向上へと活かしている	奇数月に福祉課職員等の参加で開催している。行事、入居者の様子等ホームからの報告が主だが、メンバーから「認知症カフェ」の情報を得た。参加者から意見を引き出す様な工夫をしサービスに反映させて頂きたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて情報交換の場をもうける等協力関係を築いている	家族からの依頼で更新手続きに出向いたり、事故報告や、解からない事を聞くなどし、助言を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束行為を行っていない	研修で帰宅願望のある方の要因を探るべく、一日の行動、バイタル、排泄の有無などを一週間、全職員が記録し、考察し、共有した対応をした。職員の見守り、巡視を強化することで拘束の無いケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を受け、内部研修会などで全職員に報告、説明し虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等にて成年後見制度について学ぶ機会があり活用できる環境にある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するものは必ず御家族様が理解、納得されるまで十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、利用者様、御家族様がいつでも意見・要望を表わせるような環境を整えている	予防接種を受ける病院の指定や食事時の席について等の要望があり、車の手配や職員が付き添ったり、席の配置換えをする等対応した。「悠里の郷便り」に行事等の案内を載せて参加を呼び掛ける等工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者はいつでも職員の意見や提案を聞ける体制にある	希望休を受け、勤務票に反映させたり、休憩時間を確保するための話し合い等を設けたり職員の働きやすい環境づくりに努めている。トイレのタンクの水量調整や換気扇の不具合の意見があり、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の実績、勤務状況等を把握し、職員の配置を行う等仕事への意欲向上へと繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた外部での研修や、定期的な内部の勉強会等を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流の他、宮城県グループホーム協議会に参加しており、研修会等に積極的に参加し、同業者との交流の機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や要望を聞く機会を作り、それを受け入れ個別対応する事により、本人の安心と信頼関係に繋げるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は、利用者様と御家族様からの相談や心配事などをお伺いすると共に、安心へと繋げていけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、御家族様等の希望に応じ、支援すべき事を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事等行動を共にし、利用者様と一緒に過ごし共有するよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に十分な情報交換を行う等接する時間をもうけ、信頼関係が築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ美容室、御本人様の馴染みの場所への外出等関係が途切れないよう努めている	定期的に馴染みのホーム屋に行ったり、生家や元の家近所に行く等思いに沿っている。町内の行事に参加し、馴染みの友人に会う事もある。ホーム内では仲よし同士居室で寛いだり、日光浴に誘い合ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し食席や生活リハビリ等を配慮し、良好な関係が築けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも必要に応じ、近況報告や相談等を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し支援できるよう努めている。すべての希望を聞くのは困難であるが、出来る限り意向に沿うよう支援している	対話を多くして思いを引き出している。居室で晩酌をしながら食事を希望する方には応じている。周辺症状のある方には、他入居者に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時になるべく自宅に訪問し生活環境等を伺い、これまでの生活歴を把握した上で入居後の生活へと繋がるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの状態を把握し、個別に応じた環境で生活出来るよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時に利用者様、御家族様の意向を聞き反映している。また、毎月のモニタリング会議にて全職員の意見を反映させ担当者との話し合いを行っている	ホームに慣れることを目標に暫定で作成し、期間を設けて日常を観察し本計画書とする。月1回全職員で話し合いを持ち、ケース記録を基にモニタリングをしている。特変等は随時関係者の意見を取り入れ見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録し、気づきがあった場合はその都度話し合い、解決へと繋げている。また申し送りノートを活用し情報の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、御家族様等の状況に応じ、柔軟に対応出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握できているが、それを積極的に活用できていないのが現状である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、御家族様等の希望の医療機関を利用して頂いている。必要に応じ通院時にかかりつけ医に情報提供を行っている。又は御家族様の都合や要望で通院の支援も行う事がある。	入居者のバイタルなどの情報は事前に医師に郵送し、通院は家族が対応し、月1回家族が薬をホームに届けている。家族の希望で専門医を受診している方は月一回の往診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に現在看護師は勤務していないが、入居者様の異変時には同法人の特別養護老人ホームの看護師に連絡し、適切な看護を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様の介護情報提供している。早期退院に向け医療機関と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームには看護師がいらない為、重度化、終末期に向けホームとして出来る限りを御家族様と話し合いを行い、方針を共有している	重度化の対応は口頭で家族に説明をしている。グループホームとしての重度、看取りの対応の考えはないが、家族向けの説明する文書等を準備し、同意を得る事の必要性を感じており、法人と話し合いを持ち、前向きに検討したいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署にて救急救命講習を受講しており、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っているが、地域との協力体制までは築けていないのが現状である	消火、通報、避難の総合訓練を実施した。訓練時の計画書には職員の役割等を詳しく記載してある。毛布の準備や非常食の期限の確認等の指摘があり見直している。地域住民の参加が得られず、声をかけて頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせた言葉掛けを行い、入浴やトイレへの声掛け等では誇りやプライバシーを損なわないよう支援している	「夕食が近いからすぐ戻ってね」の声掛けの目線を意識し、入居者を尊重する対応を心掛けている。女性の方は居室で化粧水やクリームを塗る等した後の洗面台の汚れをそれとなく職員はきれいになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりが思いや希望を表わしたり、自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活ペースを守り、その人らしさを優先、希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の個性に応じた髪型や身だしなみの支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の際は入居者様に野菜の皮むき、盛り付け等手伝って頂き、また食事も入居者様と職員と一緒に食べる事で食事が楽しみなよう支援している	調理師資格のある職員を中心に入居者の意見を聞き献立を作成している。食材を多く取り入れ、副菜の一品の食材の種類と量の多さを職員が感じ、検討するとしている。行事食は出前、寿司、鰻が好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士と相談しメニューを作成している。また好みや体重管理など、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には毎食後声掛けを行い、支援を要する方には職員が口腔ケアの支援を行い清潔保持へと繋げている。希望者には週1回歯科衛生士が口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入、活用し一人ひとりの排泄パターンの把握に努め支援している	排泄チェック表からトイレへの回数、尿量が少ない方は腹圧をかけたり、水分量を確認する等対応をしている。トイレ誘導する事で、パッド数が改善されたり、全介助での食事の方がトイレで排泄をするようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日便秘予防の為、牛乳・ヤクルト・ヨーグルト等を摂取して頂いている。また必要に応じ下剤を使用し対応している。毎日、体操や軽い運動なども行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は2～3日に1回とある程度決まっているが、必要に応じ対応している。また利用者様一人ひとりの希望を優先し入浴支援を行っている	週2回、曜日は決めず、入居者の希望に応じている。症状が進行し、入浴をしたことを忘れてたり、拒否をする方には無理強いすることなく、対応している。一番風呂や同性介助の希望に応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムに合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様一人ひとりの服薬の効果、副作用ともに理解しており、常時症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を把握し、庭の草取りや裁縫、食器拭き等、毎日の役割や楽しみへと繋がるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩など気軽に出掛けられる環境にある。季節を感じられるようなドライブや外食などにも出掛けている。	亘理公園、竹駒神社等ほぼ毎月外出をしている。敷地内や、近所を散歩したりテラスに出て日光浴をしている。車の使用は「法人に申し出て」と言う事で制限はあるものの、できるだけ入居者の希望に応じる様職員は努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様了解のもと、金銭管理についてはお小遣い程度の金額を金庫にてお預かりしているが、希望する方には金銭を所持して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時にはいつでも電話を使用できる体制にある。また手作りの年賀ハガキの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ等で心地よく過ごせるよう配慮している。また入居者様に不快感を与えないようテレビの音やカーテン等の配慮を行っている	食堂兼居間は、日差しが当たり、広くて明るい。空気等の澁みはなく適室温で居心地が良い。2カ所に置かれたテーブルには、気の合った入居者同士で話が弾んでいる。毎年、干支をかたどった製作は入居者と職員の合作で壁に飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やフロア、談話ソファ、和室の掘りこたつなど、環境を整え一人ひとりが自由に過ごせる共有空間を確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れ親しんだ家具を持ち込んでもらい、御本人様が居心地良く過ごせるよう支援している	全居室は床暖で、広くゆつたりしている。ヘッドと洗面台は設えてあり、使い込んだテーブルや、テレビ、こたつ等を置いている。家族の置いたソファで面会時にお茶を飲んだり、個々に過ごしやすい居室作りとなっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室には表札を設置し、出来る限り混乱を招かないよう配慮している		